

杏林大学泌尿器科 専門研修プログラム





杏林大学医学部泌尿器科学教室 主任教授

福原 浩

平成7年に東京大学医学部を卒業し、東京大学医学部附属病院やハーバード大学マサチューセッツ総合病院などを経て、平成30年4月1日より、杏林大学医学部泌尿器科学教室 主任教授を拝命しております。

研修医・専攻医の皆さんへ

手術手技の指導だけではなく、専門研修として、「文献検索を含め自分の頭で考えること」を念頭に指導を行っております。病棟において、単に上級医の指示を鵜呑みにしないよう、何故この治療方針なのか、常に問いかけながら指導しております。自主的に考えるよう促すことで、泌尿器科専門医取得に向けても、無理なく知識を吸収するとともに、広い視野を持つことができると考えているからであります。具体的には、当科の問題事例や印象に残った症例を取り上げ、「文献検索を含め自分の頭で考えること」を狙いとして、討論を通して指導しております。これは、「基礎知識を獲得するに留まらず、幅広い分野で応用の利く優秀な医療人を輩出する」という大学病院の研修の命題を達成することを目指したものであります。

なお、若い先生方にも積極的に手術に参加して頂いております。泌尿器科では、内視鏡手術や腹腔鏡手術、ロボット手術において、術者と同じ画像を共有することが可能であり、若くてもカリキュラムを整備すれば、早く手術を習得することが可能です。腹腔鏡認定医などの資格も、医局内手術手技検討会などを定期的に開催し、無理なく取得することを目指しています。

また、泌尿器科は病院ごとに特徴があるため、多摩地区の特色のある病院と連携して教育プログラムを行ってきました。このたび、新専門医制度が始まるに当たり、東京大学医学部附属病院泌尿器科のプログラムとも連携し、さらに充実した教育システムにより、優れた医療人を育てていきたいと考えております。

杏林大学医学部付属病院 主任教授 福原 浩

杏林大学プログラム専門研修連携施設

基幹・連携施設	都道府県	泌尿器総 手術数 (年間)	ロボット 手術	腹腔鏡 手術	ESWL	その他の診療内 容の特徴など
杏林大学医学部付 属病院	東京都	1545	○	○	○	女性泌尿器
河北総合病院	東京都	220	○	○		
国立病院機構災害 医療センター	東京都	235	○	○		
東京西徳州会病院	東京都	164	○	○		
杏林大学医学部付 属杉並病院	東京都	-		○		
JCHO 東京新宿メ ディカルセンター	東京都	288	○	○	○	
JCHO 東京山手メ ディカルセンター	東京都	123		○	○	
東京大学医学部付 属病院	東京都	1893	○	○	○	腎移植
三井記念病院	東京都	844	○	○	○	
国立国際医療研究 センター	東京都	612	○	○	○	
都立多摩総合医療 センター	東京都	605	○	○		
市立青梅総合医療 センター	東京都	632	○	○	○	
同愛記念病院	東京都	1211	○	○	○	
東京警察病院	東京都	801	○	○	○	
武蔵野赤十字病院	東京都	530	○	○		
日本赤十字医療セ ンター	東京都	779	○	○	○	
東京大学医科学研 究所	東京都		○	○		

立川相互病院	東京都	89		○	○	
湘南鎌倉総合病院	神奈川県	236	○	○		腎移植
名戸ヶ谷病院	千葉県	219		○	○	
施設合計	拠点 20 施設		16 施設	20 施設	13 施設	

1 杏林大学泌尿器科専門研修プログラムの理念

杏林大学泌尿器科専門研修プログラムでは、

1. 東京都西部地区唯一の特定機能病院、大学病院本院である杏林大学医学部附属病院を基幹病院として、**高度な医療に対応できる泌尿器科専門医を育成すること**
2. 地域医療のニーズに合わせてあらゆる泌尿器疾患（悪性腫瘍、結石、排尿障害、女性泌尿器など）に対応可能な**臨床能力に優れた泌尿器科専門医を育成すること**
3. 「あたたかい心のかよう、良質な医療」を患者様に提供できる、**良き医療人を育成すること**

を目的としています。

2 専門研修の目標

専門研修 4 年間の最低限の目標として、**日本泌尿器科学会の専門医取得**があります。
詳しくは日本泌尿器科学会専門医のホームページ、をご確認ください。

<https://www.urol.or.jp/specialist/test/guide.html>

2018 年以降研修開始登録者

4 年間の泌尿器科専門研修を修了していること

必要な手術件数を経験していること

A. 一般的な手術

術者として 4 領域で各 5 例以上

（「副腎、腎、後腹膜の手術」のみ 3 例以上）

かつ合計 50 例以上

B. 専門的な手術

術者あるいは助手として 1 領域 10 例以上を最低 2 領域

かつ合計 30 例以上

必要な研修単位等を取得していること

- 1) 日本泌尿器科学会総会または東部・中部・西日本各総会のいずれかに 1 回以上参加

2) 下記 ii) ～iv) の合計で 40 単位取得

ii) 共通講習

最小 3 単位 最大 10 単位

うち必須講習（医療安全・感染対策・医療倫理） 各 1 単位

iii) 泌尿器科領域講習

最小 15 単位

iv) 学術業績・診療以外の活動実績

最小 3 単位 最大 15 単位

参加単位によるものは 6 単位を上限とする

※ii、iii の必要合計単位数の 40%以上を日本泌尿器科学会の卒後教育プログラムの受講（講演・ビデオ講習・e-ラーニング）により取得すること

3) 卒後教育プログラムを 7 つのカテゴリーそれぞれについて 1 単位以上取得

【卒後教育プログラムのカテゴリーについて】

カテゴリー	専門領域		
①	小児泌尿器科	腎不全・腎移植	
②	泌尿器科腫瘍		
③	尿路結石	エンドウロロジー・腹腔鏡	
④	尿路性器感染症	外傷・救急医療・再建	
⑤	内分泌・生殖機能・性機能	副腎・後腹膜	
⑥	女性泌尿器科	老年泌尿器科・前立腺肥大症	排尿機能・神経泌尿器科
⑦	医療制度・保険等	基礎研究	オフィスウロロジー

3 杏林大学泌尿器科専門研修プログラムの特色

本プログラムの研修では、杏林大学医学部付属病院を基幹施設として、東京西部地区を中心に**ロボット支援手術が施行可能な16施設**を含む計20の連携病院を擁し、一般的な泌尿器科としての研修はもちろんのこと、**泌尿器腫瘍学、尿路結石治療、女性泌尿器などの幅広い専門的な領域の研修に対応**しています。

基幹施設である杏林大学医学部付属病院は**ロボット手術の膀胱癌が全国で2位、腎癌・腎盂尿管癌が全国で3位**（毎日ムック 病院最前線2025にて）と、豊富な手術症例と外来患者を有しており、早い年代から他の施設に類を見ない術者経験を得ることが可能であり、臨床研究、基礎研究を行う設備および教育スタッフも充実しています。また湘南鎌倉総合病院、名戸ヶ谷病院においては東京都以外の地域医療を経験できます。

本プログラムは、大学病院での研修を軸とすることで、専門医取得に向けて必要な業績や単位を難なく取得（学会発表・参加、論文作成など）しながら、泌尿器科医として必要な一般的な診療知識や優れた手術手技を習得すること、特に各々の専攻医が希望するサブスペシリティ領域（ロボット支援手術・尿路結石治療・女性泌尿器科など）における知識・技術を習得できることを目標としています。これに加えて地域医療と専門医療の両面へ配慮する事で、バランスのよい優れた泌尿器科専門医を育成する事を特色としています。

さらに、**様々な大学および大学医局出身者の在籍する連携施設と交流を図る機会も多くあり**、幅広い人脈の形成と理想とする泌尿器科医像の構築に役立つと考えています。

4. 募集専攻医数

各専攻医指導施設における専攻医総数の上限（4学年分）は、当該年度の指導医数×2です。各専門研修プログラムにおける専攻医受け入れ可能人数は、専門研修基幹施設および連携施設の受け入れ可能人数を合算したものです。受入専攻医数は病院群の症例数が専攻医の必要経験数を十分に提供できるものです。

これらの基準に基づき、**毎年最大5名を採用**できる状況です。

特に応募資格はありませんが、定員数を超過する場合は、個別にご案内の上で面接や書類審査を行うことがあります。

5. 専門知識・専門技能の習得計画

ローテーション例



希望に応じて関連病院3年也可

泌尿器科専門医は2年間の初期臨床研修が終了し、後期研修が開始した段階から開始され4年間の研修で育成されます。原則としては、4年間の研修期間のうち合計2年間を研修基幹施設である杏林大学医学部付属病院で研修する事としています。残りの2年間に関しては、研修連携施設での研修となりますが、本人の希望や研修の進み具合に応じて、研修連携施設での研修を最小1年間～最大3年間行うことを許容します。つまり、研修基幹施設である杏林大学医学部付属病院で最低1年間の研修を行うことを義務とし、残り3年間については希望と状況によって適宜変更することが可能です。

杏林大学泌尿器科研修プログラムでは bed-side や実際の手術での実地修練 (on-the-job training) に加えて、広く臨床現場での学習を重視します。具体的には以下のような項目を実施します。1週間の具体的なスケジュールを以下に示します（このうち週1～1.5日は外勤日になります）。

	午前	午後
月曜日	08:00～ 病棟回診	13:00～ 泌尿器科的専門検査・処置（前立腺生検・ウロダイナミクス）
	09:00～ 外来診察・入院患者処置	16:00～ 診療科カンファレンス・術前カンファレンス：病態と診断過程を深く理解し、治療計画作成の理論を学ぶ 18:00～ 勉強会

火曜日	08:00～ 病棟回診	13:00～ 手術、術者・助手として積極的に参加し手技を経験する
	08:30～ 手術、術者・助手として積極的に参加	17:00～ 病棟回診
水曜日	08:00～ 病棟回診	13:00～ 手術、術者・助手として積極的に参加
	08:30～ 手術、術者・助手として積極的に参加	17:00～ 病棟回診
		17:30～ 手術記録や術中ビデオによる手技の確認（任意参加）
木曜日	08:00～ 病棟回診	13:00～ 外来診療・入院患者処置
	09:00～ 外来診察・入院患者処置	15:00～ 泌尿器科的専門検査・処置（前立腺生検・ESWL・ウロダイナミクス）
		17:00～ 病棟回診
		17:30～ （希望により）シミュレーターでの hands-on-training
金曜日	08:00～ 病棟回診	13:00～ 手術、術者・助手として積極的に参加
	08:30～ 手術、術者・助手として積極的に参加	16:30～ 病棟回診
		17:00～ （希望により）個別指導による学会発表・論文発表の指導
土曜日	9:00～ 病棟回診、外来診療	
	10:00～ 入院患者処置	

- 月曜日午後に診療科カンファレンス・術前カンファレンスを行っています。1 週間の手術予定症例の術前評価を行い、手術術式を決定すると共に、前週の手術症例の術後評価を行います。また 1 週間分の外来問題症例の検討を行います。
- 毎週火曜日、水曜日、金曜日は手術が主体の研修になります。手術施行後に問題があった場合には、原因および対処法に関して全員で検討を加えます。必要に応じて術中のビデオを供覧し参加者全体での情報共有を行います。
- 毎週月曜日の 18:00 から勉強会を開催します。専攻医は、当番制で専門医試験の過去問の解説をしてもらいます。これにより各専門領域の知識・興味を掘り下げると同時に、専門医取得に必要な知識を無理なく習得することが可能となります。
- 内視鏡手術・腹腔鏡手術に関しては手術ビデオをライブラリーとして保管しており、不定期で任意参加のビデオカンファレンスを行っています。
- 基幹病院の杏林大学では、当直業務（22 時までのオンコール制）は平均月 4 回あります。

杏林大学泌尿器科専門研修プログラムへの応募をお考えの皆さんへ

はじめまして。

当プログラムで専攻医採用を担当しております、中村 雄と申します(2008 年 杏林大学卒)。

杏林大学泌尿器科専門研修プログラムでは、毎年全国各地の大学から多くの先生方にご応募いただいております。現在では母校出身者は約 3 割程度と、多様性に富んだ医局へと発展しています。

専攻医の途中退局や研修中断は極めて少なく、スタッフの数は年々増加傾向にあります。これは、当プログラムの「学閥のない風通しの良い環境」と「専攻医同士の過度な競争がない、温かくアットホームな雰囲気」が、多くの先生方にとって安心して研修できる場となっていることの表れだと考えています。当プログラムを選択していただいたすべての専攻医とスタッフにとって、“最大限の力を発揮できる環境”と、“最大公約数の幸福を守る場”を作ることが我々の使命としています。

女性医師の比率も年々増加しており、現在では約 3 割の女性泌尿器科医が各関連施設で活躍しています。関連病院の多くは東京都内に位置しており、結婚・出産などライフイベントが生じた場合でも、転居などの負担を抑えながら研修を継続しやすい体制となっています。最近では男性医師の育児休暇取得にも取り組んでおり、ワークライフバランスや QOL 向上にも力を入れています。

一方で、優れた臨床医の育成にはプログラム全体での確かな症例数が不可欠です。基幹病院である杏林大学医学部附属病院では、全国有数のロボット支援手術件数を誇り、関連施設の多くでもロボット支援手術が導入されています。ロボット設備のない施設でも、地域特性を活かした多彩な手術手技を学ぶことができ、大学病院だけでは得難い貴重な経験を積むことが可能です。

泌尿器科を志す皆さんのキャリア形成に、当プログラムが少しでも貢献できればこれ以上の喜びはありません。ぜひ一度、見学にお越しください。スタッフ一同、心よりお待ちしております！



杏林大学医学部附属病院 泌尿器科 中村 雄



見学希望の方は下記へお問い合わせください

E-mail: nakamurayu1001@ks.kyorin-u.ac.jp

採用後のご案内

- 研修開始の一ヶ月前までに日本泌尿器科学会に入会を済ませて下さい。
- 日本泌尿器科学会および日本専門医機構に以下の事項・書類を提出します
 - ・ 専攻医の氏名と医籍登録番号、専攻医の卒業年度、専攻医の研修開始年度、日本泌尿器科学会会員番号（日本専門医機構）
 - ・ 専攻医の履歴書
 - ・ 専攻医の初期研修修了証